

英語科の主張

1 教科で育みたい人間像

人の流れが活発になっている現在、日本に暮らしているながら異言語・異文化をもつ人々とかかわる機会はたくさんあります。また、インターネットなどを始めとする情報通信技術の進歩により、世界中の情報を簡単に手に入れられるだけでなく、さまざまな国の人々とのやりとりができる状況にあります。

このような社会において、異言語・異文化間の対話を可能にするものが第二言語であり、特に汎用性が高いものが英語だと言われています。英語を使用することで、英語を母語として話す人たち、英語を公用語または準公用語として話す人たち、そして英語を外国語として話す世界中の人々とのコミュニケーションが可能になります。この

ことは、英語が世界人口の3分の1に近い人々と自分をつなぐ力になり得ることを意味します。

世界の人々に自分の思いや考えを発信したり、相手のもつ思いや考えを受信したりすることは、人々の思いや考え、文化などを知ることにつながります。同時に、考え方や文化の類似点・相違点を実感し、自分の価値観や自国の文化を再認識することもできます。

このようなことをふまえ、英語科で育みたい人間像を「世界の人々とつながる人」としました。子どもたちには、英語を用いて自分の思いや考えを発信したり、異言語・異文化をもつ人々の思いや考えを受信したりすることができる人になることを願っています。

2 私たちが大切にしたいこと

英語科の授業において、英語を用いた他者との意思伝達を通して、知識(knowledge)・態度(attitude)・技能(skill)をバランスよく育みたいと考えています。異言語や異文化に対する多面的な知識、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの英語運用力を技能ととらえ、これらが融合した総合的なコミュニケーション能力の育成を大切にしていきたいと考えています。

知識・態度・技能の三つがバランスよく支え合った総合的なコミュニケーション能力は、人と柔軟につながるためには欠かせないものです。例えば、英語運用力にあたる技能が大変優れていても、自国や他国の言語や文化に対する知識がなければ、真意が伝わらず、相手に誤解を与えることもあるでしょう。また、知識や技能があっても、異文化をもつ相手とコミュニケーションを図りたいという態度がなければ、世界の人々とつながることは難しいでしょう。

私たちは総合的なコミュニケーション能力を育

むために、次のようなことを実践しようと考えました。一つの分野にとらわれない幅広い題材を用意し、日本や外国の文化に対する知識を育てていきます。また、目的をもって自分の考えや気持ちを話したり、書いたりして伝える場面を中心とした構想を練り、その展開において、子どもたちが他者からのフィードバックを取り入れながら、語彙や文法などを学ぶ機会を保障したいと思います。このように、表現する場面と習得する場面を効果的に設定することで、子どもたち同士の継続的な英語でのやりとりから、「伝わった」という達成感や充実感を味わうことができるでしょう。その積み重ねが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながるはずです。

知識・態度・技能のバランスがとれた総合的なコミュニケーション能力を育成することで、自分の思いや考えを発信したり、異言語・異文化をもつ人々の思いや考えを受信したりすることができるようになると考えています。